

海のいのち

2023. 11. 8

昨日の続きである。10月下旬に、福島市内の小学校で公開授業があった。私は、小学6年生の指導助言者だった。この学校には、昨年度からお邪魔していた。研究内容は、ユニバーサルデザインとリーディングスキルで読解力向上を目指すというものである。授業後の分科会で配布する資料のタイトルを「UDとRSで誰一人取り残さない『わかる』授業」とした。

その分科会に、福島東高校の生徒が参加していた。こんなことは今までにはなかった。なぜ、こうなったのか。福島東高校と橘高校に「教育コース」ができたからである。なぜ教育コースなのか。教員のなり手が減ってきているからである。教員採用試験の志願者減少により、倍率が下がってきている。福島県の教員になってくれる人材を育成しなければならないというわけである。県内の8校にこのコースができた。夏休み中の先生方の研修会にも、高校生が参加していた。福島大学附属中学校の研究公開にも参加するとのことだった。

小学6年生の国語の授業だった。小学校文学教材最高峰の『海のいのち』の授業だった。私には、指導助言として20分の枠が与えられた。高校生のAさんは、約20名の参加者、それも全員が先生という中に、一人であるのである。ちゃんと最前列に座っていた。すぐ斜め後ろには、Aさんを見守るように、校長先生が控えていた。この校長先生は、「校長室だより～燦燦～」を毎日読んでくださっている一人である。

指導助言の途中で、Aさんに聞いてみた。「Aさんは、小学6年生のときに、『海のいのち』を学習したことを覚えていますか」「はい、覚えています」「今日の授業のめあては、『海のいのち』の授業では、必ず扱われるものですが、Aさんは、このめあてで学習した覚えはありますか」「あります。私は、むずかしくて、考えることができませんでした」「そうですか。考えることができなかったことを覚えているのですか」「いいですね。先生方、そうは思いませんか」

ここで、終わってしまったが、実は、このあとにAさんに伝えたいことがあった。「Aさん、めでたく小学校の先生になり、6年生を担任することになったら、『海のいのち』の授業のときに、子どもたちにこう言ってください」「先生は、小学6年生のときに、今日のめあてである『なぜ、太一は、瀬の主をうたなかつたのだろうか。』について、むずかしくて考えることができませんでした。先生になって、このめあてをもう一度、考えてみたいと思っていました。今日は、みなさんと一緒に考えていきたいと思えます」

マスクはしていたが、「むずかしくて、考えることができませんでした」と言ってくれたAさんの目がよかった。私の目にくるいがなければ、Aさんは、福島県の教育界を担ってくれる人材の一人である。「Aさん、素敵だった」と、この日の全体指導を務めた家人も言っていた。Aさんには、この紙面を読んでほしい。心配はしていない。福島東高校の校長先生は、Aさんに「野田中学校のホームページを見るように」と言ってくれるはずである。